国土交通省
四国運輸局

Press Release

令和４年９月２６日
四　国　運　輸　局

「徳島県にし阿波地域における地域住民を基盤とした サステナブルな観光コンテンツ・ツアー造成事業」 のモニターツアーを実施します！

四国運輸局では、地域連携 DMO である(一社)そらの郷と連携し、１０月２日(日)から１０月６日(木)まで、観光コンテンツ造成等に知見の深い専門家を招請し、事業内で企画・開発したコンテンツの評価・課題抽出を目的としたモニターツアーを実施しますので、取材いただきたくご案内いたします。

ポスト・コロナ時代を見据え、観光資源の保全をはじめとした持続可能な観光地経営が求められており、併せて旅行者がサステナブル(持続可能)な観光を体験できるニーズが高まっていることから、本事業では欧米豪を中心としたサステナブルな観光への関心が高い層をターゲットとし、にし阿波地域の特徴ある観光資源の保護・保全と、観光振興における持続可能な利活用を長期的な目的として見据え、にし阿波地域全体として、持続可能な観光ガイドライン(ＪＳＴＳ－Ｄ)に準拠した、地域住民を基盤とした[1]サステナブルな観光コンテンツ・ツアー造成する取組を行っています。

[1] 地域住民を基盤とした観光とは、CBT（コミュニティ・ベースド・ツーリズム）のこと。CBT とは、国連世界観光機関（UNWTO）による定義を踏まえ、「訪問者と受入側の双方が有意義に参加し、地域や環境に経済的・保全的利益を生み出す相互作用」を通じた旅行形態です。

１．連携先：　(一社)そらの郷
２．実施内容
　①日程：１０月２日(日)から１０月６日(木)
　②被招請者：専門家　３名
　③行程(予定)：〈行程表〉参照

〈行程表〉※詳細は次ページの地図を参照。

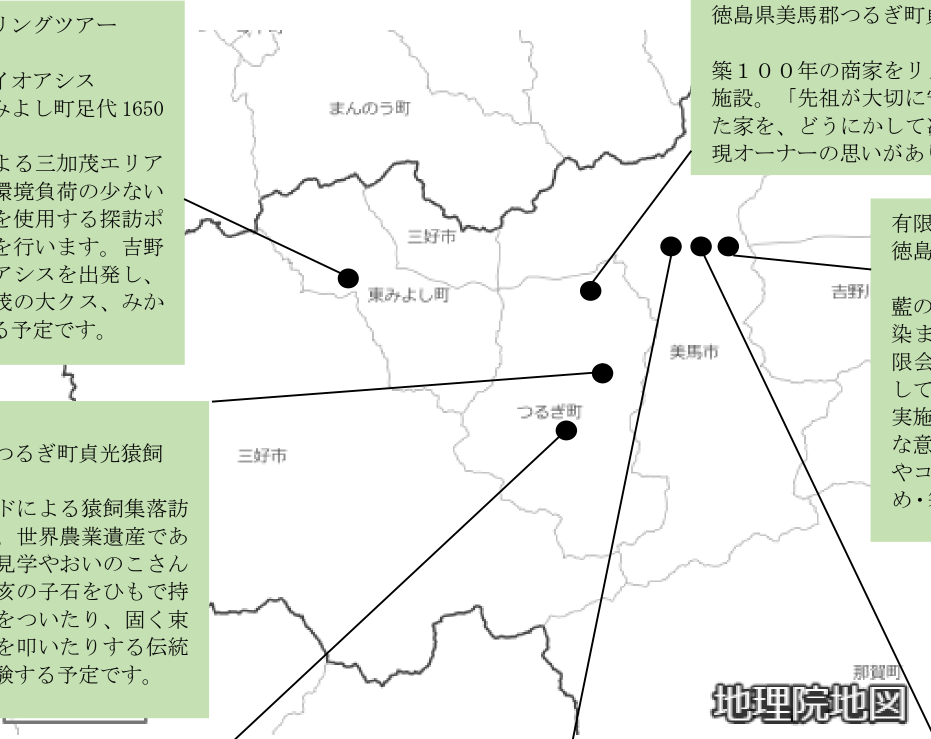
日程		時間		行程
		始	終	
１０月２日	日	9:30	13:30	東みよし町ポタリングツアー
		14:30	15:30	久藪集落（集落概要・交流、数珠回し）
		16:00	17:30	猿飼集落
		17:30		折目邸
１０月３日	月	9:30	13:00	久藪集落（毎月開催の神社のお祭りに参加）
		15:00	17:30	有限会社やまうち（セミナー）
		18:00		PAYSAGE MORIGUCHI
		19:00		Link Point SAIRAI

■ 取材対応は、２日、３日のみ可能です。訪問地の撮影及びインタビューは場所により対応が異なりますので、お問い合わせください。また当日の天候等の事情によりスケジュールが変更になる場合があります。

取材を御希望の方は、令和４年９月３０日（金）１５時までに、別添１取材登録書により ＦＡＸで登録をお願いします。

【お問い合わせ先】
四国運輸局　観光部　観光地域振興課
担当：上戸、武市
TEL　：０８７－８０２－６７３７

各訪問施設について



東みよし町ポタリングツアー
＜集合場所＞
吉野川ハイウェイオアシス
徳島県三好郡東みよし町足代 1650

ナビゲーターによる三加茂エリアを中心とした、環境負荷の少ない折り畳み自転車を使用する探訪ポタリングツアーを行います。吉野川ハイウェイオアシスを出発し、美濃田の淵、加茂の大クス、みかも喫茶等を訪れる予定です。

折目邸（宿泊施設）
徳島県美馬郡つるぎ町貞光東浦 68-1

築１００年の商家をリノベーションした古民家宿泊施設。「先祖が大切に守り、地域に愛していただいた家を、どうにかして次の世代に残したい。」との現オーナーの思いがあります。

有限会社やまうち
徳島県美馬市脇町字拝原 2698-5

藍の自家栽培から、伝統製法での染までを一貫して行っている有限会社やまうちの場所をお借りして、観光関係者向けセミナーを実施します。目的はサステナブルな意識の醸成で、講師による講演やコンテンツの一つである「藍染め・箸作り体験」を実施予定です。

猿飼集落
徳島県美馬郡つるぎ町貞光猿飼

そらの郷ガイドによる猿飼集落訪問を行います。世界農業遺産である傾斜地畑の見学やおいのこさんと呼ばれる、亥の子石をひもで持ち上げて地面をついたり、固く束ねた藁で地面を叩いたりする伝統的な行事を体験する予定です。

久薮集落（阿弥陀堂）
徳島県美馬郡つるぎ町一宇久藪 410

「徳島の山間部に暮らす人々との交流」をコンセプトに、集落に現存する阿弥陀堂で伝統風習である数珠まわしを体験したり、一宇弁で住民と交流します。また、今回は住民が主体となり続く月に一度の山のお祭り（石鎚山系の信仰）も見学し、住民との交流を深める予定です。

PAYSAGE　MORIGUCHI（宿泊施設）
徳島県美馬市脇町大字脇町 148-4

明治十四年（1881）年築の民家、森口邸をリノベーションしたわずか５室のホテル。「美しい風景＝ペイザージュ」と「風土＝土地の風俗と人びと」を併せて、土地の空気と新しい形のラグジュアリーを提案するプチ・ホテルです。

Link Point SAIRAI
徳島県美馬市脇町大字猪尻西分 140-2

世界農業遺産傾斜地の雑穀、野菜をはじめ徳島の特産、旬の野菜を使って、又フードロス削減に努めており、無駄なく食材をアレンジして提供しているカフェ・ダイニングバー

別　添　1

取材登録書

FAX 送信期限　：　令和４年９月３０日（金）１５：００まで
FAX 送信先　：　四国運輸局観光部観光地域振興課
FAX 番号　：　０８７－８０２－６７３２
Mail：skt-rtpd@gxb.mlit.go.jp

◇報道機関名
◇取材者 １）代表者 ２） ３）
◇連絡先（取材当日に連絡可能な連絡先）
◇取材先（希望の取材先に〇を記入して下さい。）

	１０／２　東みよし町ポタリングツアー
	１０／２　久藪集落
	１０／２　猿飼集落
	１０／２　折目邸
	１０／３　久藪集落
	１０／３　有限会社やまうち（セミナー）
	１０／３　ＰＡＹＳＡＧＥ　ＭＯＲＩＧＵＣＨＩ
	１０／３　ＬｉｎｋＰｏｉｎｔＳＡＩＲＡＩ

【取材当日の連絡・問合せ先】

四国運輸局観光部観光地域振興課　上戸、武市、
電話：０８７－８０２－６７３７

主要観光地での持続可能な観光に関する意識の高まり

国土交通省 観光庁

○ 近年の急速な外国人旅行者の増大により、一部観光地における混雑やマナー違反などへの関心が高まった。
○ 今後さらなるインバウンド旅客を受け入れていくためにも、オーバーツーリズムを未然に防止しつつ、持続可能な観光の発展のモデルを確立していく必要がある。

各地域における課題

＜混雑＞

【地域住民が鉄道に乗車できない】

〇鎌倉市内では、観光客が多い時期は、沿線住民が電車に乗車できない場合があった（最長約１時間待ち等）。

江ノ電の混雑状況

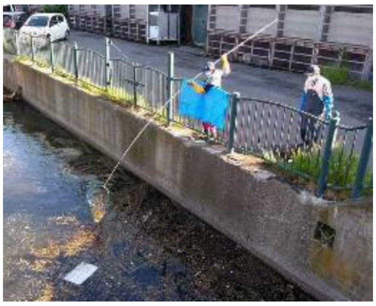
【クルーズ船着港時の交通渋滞】

〇博多市内では、クルーズ船着港時、観光バスによる交通渋滞が発生していた。

＜マナー違反＞

【路上等へのゴミのポイ捨て】

〇小樽市では、観光客が路上等に捨てたゴミを地域住民が拾う状況にあった。



観光客のゴミを拾う住民

【畑への無断侵入】

〇美瑛町や富良野市では、農家の私有地である畑や花畑に無断侵入し、インスタ映えを狙って写真撮影に興じる外国人観光客が多数に上った。

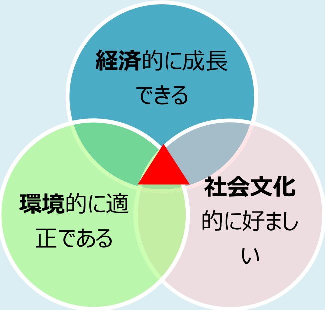
持続可能な観光(サステナブルツーリズム)の需要の高まり

国土交通省 観光庁

持続可能な観光（サステナブルツーリズム）とは

訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティーのニーズに対応しつつ、**現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光**

出典：UNWTO「ホーム>なぜ観光が重要なのか>持続可能な観光の定義」



3要素を両立させる観光がサステイナブルツーリズム

旅行者のサステナビリティに対する意識の高まり

UNWTOによる加盟国101か国に対する調査

観光目標に持続可能性を含んでいる国	100%
観光競争力に持続可能性を関連付けている国	64%
持続可能性に関する具体的アクションを講じている国	55%

出典：「UNWTO Baseline Report on the Integration of Sustainable Consumption and Production Patterns into Tourism Policies （2019）」からUNWTO駐日事務所作成

「パンデミックの影響で今よりサステナブルに旅行したいと思うようになった」と回答した世界の旅行者：61%

※30か国29,000人を対象とした調査

出典：Booking.com"Sustainable Travel Report 2021" （2021年6月）
https://globalnews.booking.com/download/1037578/booking.comsustainabletravelreport2021.pdf

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりの実現

国土交通省 観光庁

持続可能な観光地域づくりのステップ

ステップ①
地域のなりたい姿と課題を明確にする
・地域の現状を多面的に分析する

ステップ②
課題に対し、指標を決定、施策を検討
・住民、事業者等のステークホルダーと合意形成を図る

ステップ③
施策の実施、分析、改善する
・指標を計測、モニタリング、公表する

地域主体で、オーバーツーリズムを引き起こすことなく、

観光で得られた収益を地域内で循環させることにより、

地域の社会経済の活性化や文化・環境の保全・再生を図ることができる

＝

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりの実現

持続可能な観光への取組み

国土交通省 観光庁

持続可能な観光とは、**「住んでよし、訪れてよしの地域づくり」**であり、以下について総合的に取り組んでいくことが必要。

○ オーバーツーリズムの未然防止

・混雑の発生⇒ 来訪者の時期、時間、場所の分散化
・マナー違反 ⇒ 来訪者の意識啓発
＋地域住民に対するメリットの浸透

江ノ電の混雑状況（鎌倉市）

観光客のゴミを拾う住民（小樽市）

○ 自然環境、文化など地域資源の保全・再生

・木道、トイレ等の整備 ⇒ 利用料を活用した自然環境の保全
・文化財の保護 ⇒ 拝観料による文化財の保全修繕等

知床五湖における高架木道（知床）

○ 持続的な観光地域づくり

・補助金に頼った一過性の取組 ⇒ 関係者が連携して継続的に自立・自走できる地域づくり

①マネジメント体制の構築

<施策イメージ>
地方公共団体やDMOが、観光客と地域住民双方に配慮し、多面的かつ客観的なデータ計測と中長期的な計画に基づいて**持続可能な観光地域マネジメントを行うためのツールとして**、国際基準に準拠した「**日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）**」（R２.６）や「**手引き**」（R4.3）を策定。

②コンテンツの造成・工夫

<施策イメージ>
地域の負担に配慮しつつ、地域ならではの観光資源（自然、食、歴史・文化、生業等）を活用した**コンテンツの造成から販路開拓まで一貫した支援**を実施。

③受入環境の整備

<施策イメージ>
混雑の見える化（京都）
人気観光スポット周辺の時間帯別の観光快適度の予測やリアルタイム情報、密を避けた観光に役立つ情報を提供。

青色：ゆっくり観光できます
赤色：多くの観光客で賑わいます
観光快適度の予測（出典：京都観光Naviサイト）

マネジメント体制の構築：持続可能な観光ガイドライン

○ 各地方公共団体やＤＭＯが、観光客と地域住民双方に配慮し、多面的かつ客観的なデータ計測と中長期的な計画に基づき、持続可能な地域マネジメントを行うためのツールとして、国際基準に準拠した「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations，JSTS-D）」を開発（2020年6月）。

持続可能な観光指標を
盛り込んだガイドライン

「日本版持続可能な観光ガイドライン」の構成

47の大項目･113の小項目

4つの分野	大項目（例）
A 持続可能なマネジメント 大項目数：16　小項目数：41	・観光地経営戦略と実行計画（A1） ・住民意見の調査（A7） ・プロモーションと情報（A10） ・適切な民泊運営（A13）
B 社会経済のサステナビリティ 大項目数：8　小項目数：24	・観光における経済効果の測定（B1） ・コミュニティへの支援（B4） ・安全と治安（B7） ・多様な受入環境整備（B8）
C 文化的サステナビリティ 大項目数： 8　小項目数：19	・文化遺産の保護（C1） ・地域住民のアクセス権（C4） ・文化遺産における旅行者の管理（C6）
D 環境のサステナビリティ 大項目数：15　小項目数：29	・自然遺産における旅行者の管理（D2） ・生態系の維持（D4） ・野生動物の保護（D5） ・温室効果ガスの排出と気候変動の緩和（D12）

サステナブルな観光コンテンツ造成事業

- 新型コロナウイルス感染症拡大以降、世界的に「持続可能な観光（サステナブルツーリズム）」への関心が高まっているところ。（ポストコロナ、booking.com）
- サステナブルな観光を希望する訪日外国人旅行者の中でも欧米豪市場をターゲットに、地域本来の生活（生業）・自然環境・文化等を保全・活用し、JSTS－Dに準拠しつつ、それらの魅力を体験してもらう観光コンテンツの形成等を推進する。
- 四国運輸局において、令和3年度補正予算を活用し、小豆島におけるガストロノミーを活用したサステナブルな観光コンテンツ・ツアー造成事業（受注者：株式会社穴吹トラベル）、及び徳島県にし阿波地域における地域住民を基盤としたサステナブルな観光コンテンツ・ツアー造成事業（リベルタ株式会社）をそれぞれ実施する。

※徳島県にし阿波地域での事業では、（一社）そらの郷と連携して実施

事業概要

（1）事前調査

①基礎調査
ニーズ、対象地域の現状、既存観光資源の把握、課題整理

②JSTS－Dの調査
アセスメントレポート結果の分析、貢献要素の把握、課題整理

③設定ターゲットの検証
欧米豪市場におけるターゲットの詳細化

（2）観光コンテンツの造成

①観光資源の選定
サステナブルな資源であるか、JSTS－Dに準拠し得るものか、商品化が可能なものか、などの基準を設け、コンテンツ造成に活用する資源を選定。

②観光コンテンツの企画・開発
- 選定された資源を活用し、観光コンテンツを企画。
- サステナブルな観点の意識啓発を目的としたツール（案）、商品としての説明が記載されたツール（案）を作成。

③モニターツアーの実施
- サステナブルな観点やそれぞれのテーマ（小豆島：ガストロノミー、にし阿波：CBT）から評価・助言ができる専門家を招請し、モニターツアーを実施。
- 評価の取り纏めを実施。
- 実施に際し、地域住民セミナーを実施。

④磨き上げ
③の結果を踏まえ、商品化をする観光コンテンツに必要な改善を実施し、作成したツールを評価結果を踏まえ、改訂。

（3）ツアーの造成

①ツアーの企画開発
（2）で造成された観光コンテンツを活用し、ツアーを企画・開発。

②モニターツアーの実施
- 企画・開発されたツアーの評価を得るため、旅行会社・ランドオペレータ等を招請し、モニターツアーを実施。
- 評価の取り纏めを実施。

③磨き上げ
②の結果を踏まえ、商品化をする観光コンテンツに対して必要な改善を実施。

（4）持続的な仕組みの検討

来年度以降のロードマップ作成

造成したコンテンツ・ツアーの維持管理及び販売状況の分析、事業実施以降も維持・継続させていく仕組みの構築について検討・調整